

令和 4 年 8 月 9 日

東員町議会総務建設常任委員会委員長

南部 豊 様

東員町議会

大崎昭一

研修報告書

研修期間	令和4年8月2日（火） ～ 8月3日（水）【2日間】
研修（視察）先	1, 近江八幡市 2, 京都府警、京都産業大学、亀岡市
目的（テーマ等）	① 地下水の活用 ②金田コミュニティエリア ③ 金剛寺町菅沼湧水池 ④ 横断歩道安全対策としてのトリックアート
参加議員名 （複数の場合）	南部豊、片松雅弘、水谷善和、大谷勝治、伊藤治夫、大崎昭一
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

1 日目 近江八幡市。研修テーマは、

- ① 地下水の活用 ②金田コミュニティエリア視察
- ② 金剛寺町菅宮湧水池視察

滋賀県近江八幡市は、琵琶湖東岸に位置し、豊臣秀次が築いた城下町を基礎として栄え、隣接の安土町と2010年に合併し、人口は約8万人である。近江商人や織田信長築城の安土城が有名である。地形的に桑員地方とは鈴鹿山脈に隔たれているが、東海道と中山道の短絡路として、伊勢平野と琵琶湖および近江盆地を結ぶ八風街道と呼ばれる主要街道があり交易があった。現在は、国道421号の石樽トンネルが2011年3月に開通し、いなべ市、東員町内の喫茶店、大型ショッピングセンターの駐車場で滋賀県ナンバーの車両を散見する機会が増えている。東員町役場から近江八幡市役所へは、車で約2時間弱で行けるようになった。

近江八幡市役所玄関先では暑い中、議会事務局関係者様が出迎えてくださった。副議長様の歓迎の辞、南部豊委員長の謝辞に続いて、各担当者から、パワーポイントを活用して説明を受けた。

① 視察テーマ「地下水の活用について」

総合政策部まちづくり協働課様の説明は、

- ☆ 金田小学校の新校舎建設、コミュニティセンター建設に伴う防災計画の一環として、地下150メートルの地下水を汲み上げ、安全な飲料水に浄化できる「地下水膜ろ過システム」を2012年4月から運用開始した。水量は毎時4t、平時の飲料水、雑用水として活用している。
 - ☆ この事業の動機は、阪神淡路大震災（1995年1月17日発生）を体験して、災害非常時に住民の命を守る観点から、地域ごとに避難所の確保が必要と認識した。
 - ☆ コミュニティセンターと小学校の体育館や教室を避難施設として使用できるよう、一体的に整備する事業に着手した。（コミュニティエリア構想）
 - ☆ さらに、東日本大震災（2011年3月11日発生）を教訓に、コミュニティセンターを各学区の防災拠点と位置づけ、防災機能強化のための整備を行った。
 - ☆ 防災計画に必要な機能は、①避難想定人数、学区の約10% ②飲料水確保 3ℓ／人×3日×1500人＝13,500ℓ ③トイレ洗浄水 45,000ℓ／日 ④生活排水の一時貯留槽を地下に埋設。
 - ⑤電源確保 ⑥食事調理への対応 ⑦地域の防災指令室となるようコミュニティセンターの機能整備 ⑧初期対応の非常食備蓄、全市的に順次整備
 - ☆ 近江八幡市コミュニティエリア整備事業
- 小学校、コミュニティセンター、放課後児童クラブ、子供の家を学区ごとに集中させ、機能化を図る。地域住民とよく話し合い、住民の意向を丁寧に汲み取り、小学校既存地域に移転集中できる学区、既存小学校に集中することが地形的に無理な学区は、すべ移

転新設により整備を行う。

小学校区は5か所あり、費用は概ね1か所30億～40億円。

② 金田コミュニティエリア現地視察

市役所から車で10分ほどの距離にある金田コミュニティエリアは、既存の地に金田小学校、コミュニティセンター、幼稚園、放課後児童クラブを新設して整備された。

会議室、多目的ホールは大小に分離され、小人数利用、大人数利用ができるように配慮されていた。多目的ホールでは囲碁を楽しむ地域の人たちの姿を見られた。

コミュニティエリアは、既存小学校に隣接方式が金田地区のほか馬淵学区、移転新設整備学区が桐原学区、岡山学区と説明を受けた。

③ 金剛寺町菅宮湧水池視察

湧水池は金田コミュニティエリアから徒歩約10分のところに位置していた。

湧水池の隣りには自治会集会所があり、照り付ける太陽に汗だくの私たちを自治会長様や湧水池保存会の皆様が出迎えて下さり、環境破壊でホタルが30年前に途絶えていた湧き水水源池と小川にホタルが戻るようにと環境美化に取り組んでいる様子をパワーポイントで説明いただいた。

数年前からの環境保全整備の取り組みが功を奏し、3年前にホタルが出現した。その時の喜びはひとしおであった、と語られた笑顔が印象的であった。来年もまた再来年もホタルが飛び交う環境を守り続けたいと語られた。



菅沼湧水池と水路と遊歩道はボランティアの住民の皆さんで保全活動されている。

2 日目 京都市、京都産業大学、亀岡市

視察事項：「学生提案のトリックアートを用いた横断歩道について」

- 横断歩道にトリックアート技法を用いて、交通事故軽減に寄与することを目的にしたもので、京都府化及び全国的にも珍しいのが現状であることから、視察研修のテーマとした。
- 京都産業大学で座学研修をした後にトリックアート横断歩道の現地を視察した。

京都市北区上賀茂にある京都産業大学法学部教授の高^{たかし}英博さん、高^{たかし}ゼミ4年生の山下康平さん、京都府警交通戦略係長の藤本純二さんが応対、説明をしてくださった。

京都府警が、「ポリス&カレッジ in KYOTO 2020」で京都産業大学高^{たかし}ゼミの学生たちが提案をした「横断歩道のトリックアート化」を最優秀賞として採用して、2021年8月6日から亀岡市立千代川小学校の通学路と同町内の横断歩道の2か所に実施した。

効果は、①小学校の通学路において未来を担う児童を交通事故の被害から守り、交通事故安全対策を図る。②横断歩道を視覚的に明確化することで、運転者が歩行者等の優先義務の順守を図り、事故防止に寄与できる。

京都府警が「トリックアート横断歩道」を採用した経緯は、

交通安全対策の一環として2018年から、「ポリス&カレッジ in KYOTO」の取り組みを、毎年開催している。2020年のテーマは「信号機のない横断歩道における歩行者優先対策」で5大学6ゼミから応募があり、その中で京都産業大学高^{たかし}ゼミの「横断歩道のトリックアート化と歩行者向けのポスター掲示」の企画が、最優秀賞に輝き京都府警が採用し、実現したものである。



亀岡市立千代川小学校
校正門前の「トリック
アート横断歩道」風景



京都府警、一般社団法人
京都府トラック協会が主
催の「ポリス&カレッジ
inKYOUTO 2020」の案内

【所感】

1. 近江八幡市視察

人口約8万人、(2022年度一般会計355億円)の市政である。

日本列島を襲った二つの大震災を受け、地方自治体の役割として、住民の命と暮らしを守る必要性を行政が受け止め、地域コミュニティを軸足において、住民の安心感を培う事業を中長期展望の上で実現しているという感想を得た。

そこには、「近江八幡市総合政策部まちづくり協働課」という行政執行部の中で組織され、“地方自治の本旨は住民の福祉向上”という理念を形として実在させ、政策にして、予算執行をしている、という認識を抱いた。

「まちづくり」「協働」というネーミングに行政姿勢を顕わしていると思う。

わが東員町はどうか、と自問自答してみると、学ぶべきことが多であると言わざるを得ない、と思った。

2. 京都視察

京都府警が交通安全施策充実を目的に、学生の街・京都の知の拠点の大学と連携して学生の柔軟な発想を生かしてアイデアを募ろう、と企画したもの。「ポリス&カレッジ in KYOTO」とは、京都府警が多数の大学のゼミに呼び掛けて行うプレゼンテーション大会で、2018年から開催し、今年で5年目になる。

横断歩道のトリックアート方式の実現までに様々な問題を乗り越え実現した。横断歩道は白色ペンキで塗り幅も法令規制で定められていること、府警で出せる予算は白色部分だけ、あとはどこが費用を持つのかなどの課題を解決するのに苦労されたようだ。努力の結果、亀岡市が費用負担することになり、トリックアート横断歩道が実現した、とのことであった。

いわゆる、縦割り行政の課題にぶつかるわけだが、それを乗り越えたのは、住民を交通事故から守る、という使命感と熱意が、府警の担当部門にあったのだろうと思った。

今回の研修視察は、東員町民の福祉充実を求める声に応えるための努力と、それに先んじる先見性が議員と議会、行政執行部に求められているのであることを学んだ。

以上